基本目標3 〜安心して、心身ともに豊かに暮らせる 地域社会づくりを目指して〜 「相互理解と社会参加の促進」

行動計画(6) 社会参加しやすい環境づくりの推進

住民がサポーターとなり、同じ地域住民で日常生活のちょっとした困りごとを抱えている人のお手伝いをする「生活応援隊」を、小田原市で最初に立ち上げた人が「何故、立ち上げる決心をしたのか」ということについて、次のように語りました。

「300人近くもの人が、サポーターとしての活動を希望したということもあるが 一番の要因は、ある社会福祉法人が空き店舗だった場所を地域の相談交流拠点と して整備をし、その場所を生活応援隊の拠点としても位置付けてくれたからで、 それがなければ、立ち上げる勇気はなかった」

生活応援隊については、令和3年度末での取組地区は10地区になりますが、多くの地区が最初に立ち上げた地区を参考にして市内に広がったので、この拠点の整備がなければ、今のような活動の広がりはなかったかも知れません。

活動を志す人の存在は必要ですが、そういった人々の活動する場が整備されるこによって、その活動は飛躍することになります。

耕作放棄地の再生、空き家の活用、商店街の活性化など、地域社会が抱えるさまざまな課題は、高齢者や障がい者、生活困窮者などの就労や社会参加の機会を提供する資源でもあります。

そこで、社会福祉・産業経済などの領域を超えてつながり、人々の多様なニーズに応えると同時に、資源の有効活用や活性化を実現するという「循環」を生み出していくことを目指します。

方向性

- ・参加や活動の場の把握、開発の推進
- ・ 地域における住民交流活動への支援
- 多様な居場所づくりと社会参加の促進



○住民・地域(地区社協など)が取り組める役割

- あらゆる立場の人が交流できる場や機会づくりについて考えましょう。
- 地域で取り組まれている各種活動を通して、その継続や発展のために 必要なことを考えましょう。
- 新しい交流の場、活動の継続や発展のために必要な環境整備や資金について小田原市や市社協などと相談しましょう。
- ○社会参加の促進に向けた 市社協、福祉施設・団体、企業などの役割
 - ①生活支援体制整備事業コーディネーター業務(資源把握・活動する場創出) の推進(区分:市事業、市社協受託)

高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的に、地域において、提供体制の構築に向けた資源開発や必要な人に結びつけるマッチング機能の充実を目指します。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関等
土な収租	令和4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	建捞凹冲 税贷守
					ĺ	地区社協
資源把握	把握の継続					地域内各種団体
						地域包括支援センター
活動する場創出 創出にあたっての連携係				 携促進	-	企業、商店
	_					他

②各種活動支援の充実(区分:協働事業)

次の各種活動について、住民主体による継続が図られるよう、関係団体、機関などと連携しながらの支援を目指します。

主な取組	令和4年度	年 5年度	次 計 6年度	画 7年度	8年度	連携団体・機関等
	月相4十段	3 平皮	0 平皮	7 平皮	0 平皮	
生活応援隊活動	立ち上げ・	運営支援、1	ー 青報交換・共	有強化、補助	加内容検討	
						地区社協
サロン活動	立ち上げ・	運営支援、「	青報交換・共	有強化、補助	加内容検討	地域コミュニティ組織
						地域内各種団体
世代間交流事業	検		地域特性にあ	 	発検討	地域包括支援センター
						福祉施設・団体
子ども食堂		活動状況の)把握・支援だ	方法検討	\Longrightarrow	商店、企業
						他
子育て関連活動		活動状況の)把握・支援	方法検討	>	

③年末たすけあい義援金配分事業の充実(区分:協働事業)

地域における各種活動財源としても活用されている本配分事業について、効果的な展 開を目指します。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関等
土は収租	令和4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	理携凹体 · 機関守
			ı			地区社協
年末たすけあい		情報把握	・新しい活動		\rightarrow	地域内各種団体 福祉施設・団体
義援金配分事業						商店、企業、他

④空き家、ICT(情報通信技術)の活用(区分:協働事業)

あらゆる立場の人が交流できる場やICTを活用した参加しやすい環境整備について 地域のニーズに沿いながら、関係団体、機関、企業などとの連携による開発を目指し ます。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関
土な収組	令和4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	上海山体 城民
						地区社協
						地域内各種団体
環境整備		7	l 研究・開発		-	地域包括支援センター
· 农况正 / / / / / / / / / / / / / / / / / / /			7176 I MI76			福祉施設・団体
						商店、企業
						他

第4章 行動計画(6) 社会参加しやすい環境づくりの推進

⑤新たな協働活動の開発(区分:協働事業)

福祉施設、企業などが保有している資源を地域福祉活動のために活用する方法について、協働による開発を目指します。

	年	次 計	画		連携団体・機関
令和4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	建 秀凹件 院民
					地区社協 地域内各種団体
		研究・開発			地域包括支援センター福祉施設・団体
					商店、企業
	令和4年度	令和4年度 5年度		令和 4 年度 5 年度 6 年度 7 年度	令和4年度 5年度 6年度 7年度 8年度 研究・開発

高齢者の移動、病院の送迎バス活用(横浜市)

横浜市では、病院の送迎バスを地域の高齢者の移動手段として活用する実証運行をしま した。

買い物などの外出に役立ててもらい、高齢者の移動の利便性を高めたいという考えで、 利用状況や課題を検証したうえで、本格実施の可否を判断するほか、他の病院や商業施 設などでも同様の取り組みができないか検討するとのことです。

協力するのは同市青葉区にある横浜総合病院で、送迎に使っている14人乗り(客席は12席)のワゴン車が活用されました。

バスが利用できるのは自力で乗り降りができる 70 歳以上の青葉区民。区役所などで乗車 証を発行してもらう必要があります。バスの乗車料は無料です。

バスの運行は平日のみ。病院は送迎バスを1日6便運行していますが、病院の利用者で 混雑する時間を除いた4便をこの送迎活用としました。

バスは病院の周辺を約30分かけて走行しており、ルート上であれば、バスが通りかかった時に手を挙げれば乗れ、乗車時に運転手に乗車証を見せ、目的地を伝えて利用するとのことです。 (「日本経済新聞」2018年1月18日から)



他にも、自動車学校・教習所送迎バスを活用した「高齢者支援協力バス事業」(船橋市)などの例もあります。

住民・企業・専門職の関係づくりと多様な参加で地域を"面"で支えるおおた高齢者見守りネットワーク「みま~も」(東京都大田区)

「みま~も」は、まだ地域包括ケアシステムという言葉が定着していなかった 2008 年、 医療・介護・福祉の現場で働く専門職が、地域に暮らす高齢者を"点"(専門職による 個別支援)ではなく、"面"(地域のさまざまな主体の参画による支援)で支える必要 性を感じ、そのしくみとして発足した任意団体です。

住民向けにさまざまなテーマで開催される「地域づくりセミナー」、高齢者の緊急時に 地域包括支援センターに連絡できるようにする「高齢者見守りキーホルダー」、商店街 の空き店舗を利用して、さまざまな社会参加の活動を行う「みま~もステーション」 などの活動に取り組んでいます。

活動には高齢者が「みま~もサポーター」として参加、ときには講師を務めるなど 「みま~も」の活動を担う主体としてかかわっています。

「みま~も」の運営は、補助金や助成金に頼らず、企業や事業所の協賛金で支えられています。協賛する企業等はそれぞれの得意分野を活かして日々の「みま~も」の活動

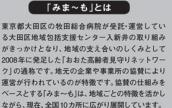


をしている 2手話ダンスは全身を使って行っ ている

ている
3ミマモリ食堂では惣菜をつくっている
4お休み処『アキナイ山王亭』で行われるパソコン教室









に携わるため、お金を出すだけでなく、人も出し、 汗もかくことになります。 この協賛のしくみをベースとして、「みま〜も」は 多彩な社会資源と有効なネットワークをつくり、 発足から10年以上たった今でも、その裾野は広がっています。

(広報誌「厚生労働」 2020 年 11 月号から)

行動計画(7) 介護予防・健康づくりの推進

社会とのつながりが豊富な人は、長く健康でいられ、認知症にもなりにくいことが知られています。

また、同世代だけではなく、他世代との交流も効果的で、自分とは異なる背景をもつ人との付き合いが多いほど、認知機能低下が起こりにくいといわれています。

さらに、地域の中でのつながりが強いと、健康情報などの共有がしやすく、お互いの見守りもしやすいことから、そこに住む人の健康は維持されやすいという報告もあります。そこで、「人と人との交流」という側面から健康に対する意識をさらに醸成し、介護予防を充実することで、健康寿命の延伸を目指します。

方 向 性

- ・必要な人に対応する活動を結びつける取り組みの推進
- 高齢者の社会的役割の向上に向けた取り組みの推進

方向性に対する役割

○住民・地域(地区社協など)が取り組める役割

- 高齢者も気軽に参加できるよう、市民体操やラジオ体操などの軽い体操を行う場を身近なところでつくり、みんなで声を掛け合って参加しましょう。
- 体力によって選べるウォーキングコースを地域内で設定し、マップを つくるなどして地域住民に周知しましょう。
- 介護を必要とする状態にならないよう、日頃から健康に留意し、体力 づくりに励みましょう。
- ・料理教室や栄養教室に参加したり、または、料理教室や栄養教室など を開催するなど、健康管理に関する知識を身につけましょう。

○自立した生活を支える環境の整備に向けた 市社協、福祉施設・団体、企業などの役割

①生活支援体制整備事業コーディネーター業務(資源開発・マッチング機能) の推進(区分:市事業、市社協受託)

高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的に、地域において、提供体制の構築に向けた資源開発や必要な人に結びつけるマッチング機能の充実を目指します。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関等
土な収租	令和4年度	5 年度	6年度	7年度	8年度	性病凹体。(成)员守 ————————————————————————————————————
						地区社協
資源開発		開	発 推 近 	<u> </u>	>	地域内各種団体
						地域包括支援センター
マッチング		機	能 充 爭	Ę	-	企業、商店
						他

②生産性や充実感を得られるサロン的活動の開発(区分:協働事業)

高齢者が参加して顔見知りになるだけではなく、生産活動もすることで、ちょっとした収入が得られ、生きがいの創出にもつながるような場のあり方を研究します。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関等
土な収組	令和4年度	5 年度	6年度	7年度	8年度	连
						地区社協
					_	地域内各種団体
生きがい創出			研究・開発		\longrightarrow	地域包括支援センター
						企業、商店
						他

③**各種介護予防事業の推進**(区分:市事業、市社協受託)

地区社協で実施されている「いきいき健康事業」、高齢者の社会参加や生きがいづくりを奨励・支援する「アクティブシニア応援ポイント事業」、見守りと低栄養の改善を目指す「食の自立支援事業」は、市と協議のうえ地域包括支援センター等と連携しながら推進します。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関等
土な収租	令和4年度	5 年度	6年度	7年度	8年度	上 连扬凹件 "
						地区社協
いきいき健康事業		推進・ス	メニュー開拓	(随時)	>	地域内各種団体
マカニュヴィーマ					-	地域包括支援センター
アクティブシニア			推進		-	福祉施設
応援ポイント事業						企業、商店
食の自立支援事業		市と	協議しながら	推進	$\hat{\parallel}$	地域包括支援センター 配食事業者
						比尺ず木行

7.5歳以上の女性たちが取り仕切る「ばあちゃん食堂」(福岡県うきは市)

高齢者が35%を占める福岡県の農村、うきは市で「まだ働きたい」「月にあと2~3万円あれば助かるのに・・・」という声を聞いた大熊充さん(40歳)が、「ばあちゃんたちと生きがいを感じながら働ける地域にしたい」「ばあちゃんたちと若者が協力して働くことで、地方の田舎を元気にしたい」という思いで「うきはの宝株式会社」を創設しました。

○会社の目的は次の二つ

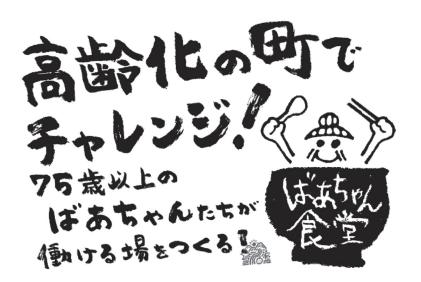
- ばあちゃんたちの生きがいの創出
- ・ばあちゃんたちに年金プラスの収入として時給 1,000 円を実行

そして、2020年春にスタートしたのが「ばあちゃん食堂」です。

「ものづくりは、まちづくり、そして未来をつくる」をモットーに、75歳以上の女性たちの知恵と特性を活かして商品・サービス化して次世代に継承することをめざして、 漬物づくり名人、郷土料理やオリジナルのレシピを持っている人がつくる惣菜やおむすび、料理だけではなく、編み物の得意な人が世代を超えて一緒に取り組む編み物ブランドなど、それぞれの得意な分野を活かして働いています。

働いている女性からは

「自分の料理が美味しいと言ってもらえることが嬉しい」 「お客さんともふれあえて、元気をもらえる」 という声が寄せられています。



(うきはの宝株式会社のホームページから)

◎いきいき健康事業

この事業は、すべての高齢者を対象とし、生活機能の維持・向上を図り、自立生活の助長 及び要介護状態になることの予防を目的としています。

地区社協の主催で公民館などで開催されます。

新型コロナウイルス感染症により、本事業の計画・実施が困難な状況となっていますが、 令和4年度の場合、講師の派遣などで対応できるメニューは次のとおりです。

メニュー名	目的	内 容
転倒予防教室	転倒等による骨折を予防し、寝た きり防止につなげる。	健康、生活面から転倒を予防するための 講義及び簡単な運動を行う。
認知症予防教室	知的機能を維持し、創作意欲や達成感を得ることによって認知症を 予防する。	認知症及びうつについての話を聞き、予 防するための有効手段としての作業療法 (手芸等)を体験する。
レクリエーション	レクリエーションを通して集団の 中での活動を楽しむことにより外 出意欲の増進を図る。	体操、ゲーム等のレクリエーションを通 して体を動かす。
家でもできる簡単な体操	身体を動かすことの大切さや心地 よさを実感してもらうことによ り、外出を含め、継続して身体を 動かすきっかけをつくる。	ストレッチ体操、リズム体操、リラック ス体操、肩こり・腰痛予防体操等、家庭 でも簡単にできる体操を学ぶ。
ウォーキング・近隣へ散歩	歩くことにより、日常生活における健康の増進を図ることや、住み 慣れた地域の再発見をする。	地域の実情にあわせて、散歩・ウォーキングコースを作り、歩く。
健康づくりのための食生活	健康づくりのための食生活への関心を高める。	健康づくりのための食生活に関する話を 聞く。
健康講話	健康に関する知識の普及、健康意 識の向上を図る。	健康に関する話を聞く。(特に、小田原地域に発症が多い脳血管疾患や糖尿病予防の話、栄養、運動、健康づくり等について)を聞く。
口からはじまる介護予防	ロ腔内の清潔を保つことにより、 感染症を予防し、健康の増進を図 る。	歯磨きに関する指導を受け、口の体操等 を行う。
市民体操「おだわら百彩」 を覚えましょう	市民体操を覚えて実践することにより、健康の増進を図る。	新しい体操を覚える。
スクエアステップ&マットス	楽しみながら認知機能の改善と身 体機能の向上を目指す。	升目で区切ったマットを使用し、前進・ 後退・左右・斜め方向へ連続移動をする。
ボッチャ	すべての人が一緒こできる、 競えるスポーツ (オリンピック正式種目) を知る。	白いボールに、赤・青のボールを投げたり、転がしたりしていかに近づけるかを競う。

◎アクティブシニア応援ポイント事業

アクティブシニア 応援ポイント事業

楽しくボランティア活動をできる制度があります 生きがいを持って、介護予防に取り組みたい 高齢者が社会貢献と心身の健康のために

アクティブシニア 応援ポイント事業とは

そんな思いを持った高齢者を後押しします

6歳以上の人が、対象の高齢者施

ボランティア活動の内容

ゲーム、囲碁・将棋の相手 入所者の話し相手

300人以上が参加しています。 ら始まったこの事業には、これまでに 品と交換できます。平成25年10月か ントとなり、ポイント数に応じて、商 ます。スタンプ10個で1000ポイ その活動に対してスタンプが押され 設などでボランティア活動をすると、 入所者が増え、施設職員が不足する 高齢化が進み、高齢者施設などの

中で、自分の持つ力を生かした社会 貢献ができ、

健康維持に もつながり

7004 F027 CHC4>664 F528#8

配膳の補助など 歌や音楽の指導や披露

受入施設

- など) 介護保険施設(特別養護老人ホーム

市の施設(保育園など) 障がい者福祉施設

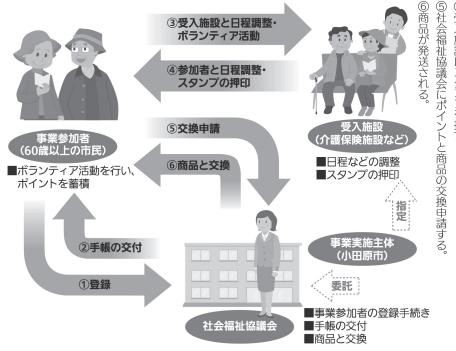
「皆に笑顔になってもらいたい」

活動の流れ

③受入施設に連絡し、日程調整した後、ボランティア活動を行う。 ②社会福祉協議会から「アクティブシニア応援ポイント手帳」を受け取る。 の参加したい人は社会福祉協議会に連絡し、事業に登録する。

④受入施設はスタンプを押す





え土協おだわら



コロナ禍でもつながる地域活動

新型コロナウイルスの脅威が続き、地域で集まることが難 しくなりました。

そうした中、つながりが途切れることなく、お互いの暮ら しを気に掛け合うには、何ができるのかを考え、工夫をし ながらの活動が続けられています。





↑集まれないけど、つながりたい思い (サロン・国府津地区)

サロンの開催ができない代わりに、参加者に花びら型の紙を配りました。その紙に名前を書いてもらい、散歩ついでにサロン会場に掲示された木が描かれた模造紙に貼ってもらうという試みです。花びらを貼りに来た人は、知っている名前を見れば直接会えなくても、つながりを感じることができました。

←消毒と手洗いについて学ぶ(いきいき健康事業・豊川地区) 多くの人が介護予防について学ぶ「いきいき健康事業」ですが、学んだこと を参加できなかった人にもお伝えする形の参加者限定で開催しました。中北 薬品株式会社のご協力で、感染予防の正しい知識が地域に広がりました。

行動計画(8) 広報活動の充実

地域福祉活動が活発になるためには、多くの地域住民や企業に関心を持っていただき活動が正しく理解される必要があり、そのためには、あらゆる機会を通して効果的な広報啓発活動を行うことが重要です。

今後の展望は、地域住民が一体感を醸成できるような効果的な「広報活動の充実」、あらゆる立場の人に対応できるような「情報収集・提供の充実」、更にはお互いを差別しない地域づくりを目指した「啓発活動の充実」を図り、より多くの住民や企業などに地域福祉活動への理解をしていただくとともに、参加もしていただけるような地域社会を築き上げていきます。

方 向 性

- ・多くの住民に関心を持ってもらう広報媒体の開発
- ・住民主体の地域づくりに関する啓発運動の促進
- 心のバリアフリーの醸成

方向性に対する役割

○住民・地域(地区社協など)が取り組める役割

- 地域福祉に関心を持ち、地域で行われている活動を知りましょう。
- •「高齢者だから」「障がいがあるから」ではなく、お互いを理解し差別 しない付き合いをしましょう。

○新たな方法や視点での広報活動の充実に向けた 市社協、福祉施設・団体、企業などの役割

①各種広報活動の充実(区分:協働事業)

市社協及び地区社協が行っている広報活動の充実を目指します。

主な取組	年 次 計 画					 連携団体・機関等
土は収租	令和4年度	5 年度	6年度	7年度	8年度	建扬凹件 放闲等
						地区社協
市社協広報紙等			実		>	地域内各種団体
						地域包括支援センター
地区社協広報紙等			実		-	福祉施設・団体
						企業、商店

② SNS などを活用した情報発信の充実(区分:協働事業)

特に若者世代に関心をもってもらうために、効果的な広報媒体の活用を目指します。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関等
土な収租	令和4年度	5 年度	6年度	7年度	8年度	性病凹件 · 成闵守
						地区社協
					_	地域内各種団体
各種広報媒体活用		広報媒	体研究・活用	用推進	\longrightarrow	地域包括支援センター
						福祉施設・団体
						企業、商店

③各種事業を通した広報活動の充実(区分:協働事業)

福祉施設や団体で取り組まれている事業などを効果的に紹介し、心のバリアフリーの 醸成を目指します。

主な取組		年	次 計	画		連携団体・機関等
土な収租	令和4年度	5 年度	6年度	7年度	8年度	连扬凹冲 放闲守
						地区社協
☆ 七口ルムーークがマックノ		;;;±□+;	・ドスの知人	/₽±п+\	-	地域内各種団体
広報物等発行		仏報は	どでの紹介	(随時) 		福祉施設・団体
						企業、商店

④若者などに企画段階から参加を得る広報活動展開の検討(区分:協働事業)

小中高生、大学生をはじめとする若者、更にはあらゆる立場の人が企画段階から広報活動に参加する展開を検討し、地域福祉の普及を目指します。

主な取組	年 次 計 画				連携団体・機関	
	令和4年度	5 年度	6年度	7年度	8年度	生
広報活動展開検討		を得るための 討・調整		活動展	開	地区社協 地域内各種団体 学校、PTA 関係 福祉施設・団体 商店、企業

え土協おだわら



コロナだからこそつながりを絶やさない

